

「市木 美し里 楽学プロジェクト」

邑南町立市木公民館

1 邑南町立市木公民館の概要

邑南町の玄関口として広島県と島根県の接合点に位置する市木地区は、その昔宿場町として栄えた。参勤交代が行われた石州街道が今なお残っている歴史や文化に秀でた町である。人口482名、世帯数208戸、1自治会1小学校1保育園1公民館である故に地区が結束して社会教育に取り組むことができる。

館長、主事、事務員の3人体制で地域を巻き込んだ地域力をめざしている。

2 事業の概要

(1) 事業のねらい

市木の魅力を活かす知識、知恵、経験等の伝授の方法またはその資源を有効に活用することが課題となり、学びを通して知る人も伝える人も共に支え合うことがひいては、「地域力」となる。その学びの成果を市木地区にフィードバックすることが、地区を巻き込んだ活動になる。

【楽しもう！生涯学習】

市木の歴史や文化をテーマとし、地域を巻き込んだイベントを開催する。
市木の歴史や文化に拘った学習の成果を公民館まつりで披露する。

【学ぼう！社会教育】

ふるさと学芸員のスキルアップをめざすおもてなし教育を学ぶ。
地域間交流をめざす邑南町ふるさと学芸員のネットワークづくりをする。
田舎ツーリズムと連携して、お宝巡りツアーを自ら企画する。

【伝えよう！ふるさと教育】

後世に語り継ぐふるさと教育をめざす。
将来の良き隣人となる子どもを育てる。
市木カルタをベースに共に学ぶふるさと学習を行う。



(2) 具体的な取組

ア【楽しもう！生涯学習】

(ア) 毎月1回ふるさと学芸塾を開催した。生涯学習課長を講師に迎え、市木に古くから言い伝えられてきた歴史物語の学習会やその内容を伝える手法を学んだ。

(イ) 邑南町内外から市木の歴史や文化についてボランティアガイドの依頼があった。学習をしたことの成果を生かすステージがあり、そのことが学芸員にとっても励みになった。

また、その学習のベースは「市木カルタ」であり、学習した内容を公民館まつりで劇にして発表し、地域の人々に関心を持ってもらった。



研修会の様子



ボランティアガイド



市木公民館まつりで舞台発表

イ【学ぼう！社会教育】

- (ア) ふるさと学芸員の先進的な取組を邑南町全体に広めるために、邑南町ふるさと学芸員のネットワークづくりを田舎ツーリズム推進研究会と連携して研修会を開催した。他地区にも充分参考になり、その後、学芸員の数も増えており、地域振興にも確実に波及してきた。
- (イ) ボランティアガイドの手法を学ぶために、広島県竹原市と福岡県柳川市へ先進地の視察へ出かけた。各先進地の様々な学芸員を見て、人を引きつける喋り方を目のあたりにし、新たな目標ができた。



市木カルタによるお宝披露



先進地の視察



ボランティアガイド研修

ウ【伝えよう！ふるさと教育】

- (ア) 「ふるさと探検隊」として地元の市木小学校と連携し、市木地区の歴史や文化をふるさと学芸員より聞き、その聞いた内容を調べ学習として発展させた。小学生が学んだ成果発表会へふるさと学芸員が招待され、その取組の振り返りを行った。
- (イ) 中学校との関わりは、市木カルタにまつわる歴史や文化を調べ学習としてフィールドワークをし、その授業成果を文化祭で発表した。
- (ウ) 邑南町内の新任の教職員の研修の場として、市木をステージとして市木の歴史や文化についてふるさと学芸員が説明した。また、より多くの人に市木のお宝を知っていただくために、市木地区のお宝をDVDに納め資料として使った。
- (エ) ふるさと学芸員の頑張っている活動の様子を、おおなんケーブルテレビで放映し、その活動の発信と啓発を行った。



ふるさと探検隊



学芸員のお芝居による説明



ケーブルTV収録

3 事業の成果と課題

- (1) 市木地区のお宝を伝えるために自らその手法を学習し、ボランティアガイドをすることで生き甲斐として取り組むその姿勢は、邑南町でも先進的な取組となった。学びを自己満足にとどめず、学芸員としてスキルを上げるために大竹市や柳川市に視察に出かけ、ガイドの手法を意欲的に学んだ。
- (2) 視察の受入れも田舎ツーリズム推進研究会と連携し、郷土料理を提供しながらお宝の案内をしたことで、地域が一体となって取り組むことができた。来町者にも評判が良かった。
- (3) この活動を通して公民館への来館者が一層増えた。
- (4) 毎月のようにふるさと学芸員のガイド要請があり、一時期学習時間が十分にとれない時があった。そこが課題である。

4 今後の方向性

- (1) 引き続き学習を続けて学芸員として自信をつけていきたい。若いふるさと学芸員を養成することにより、地域のお宝を後世に語り継いでいきたい。
- (2) 市木カルタをベースに、どのお宝についてもふるさと学芸員の誰もがガイドできるよう学習していきたい。